

皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

- ◇例会日
- ◇例会場
- ◇事務所

第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp



The Magic of Rotary



第1667回例会 令和6年9月12日(木)

ガバナー補佐訪問

【会長の時間】

高田 富康

皆さん、こんにちは。今日はガバナー補佐訪問という事で、柴崎さんをはじめ寄居ロータリークラブの皆さんにはお忙しい中、お暑い中、お越し頂きまして、ありがとうございます。



書類点検他も順調に終わりましたので、皆さんに報告させて頂きたいと思っております。私は不良会員なので、やらなくてはいけない事やしていない事については、前向きに対処したいと思います。

私もいろいろな方面に仲間がいます。仲間として気の合うのは、ロータリーで価値観を同じにしている会員の人が一番良い関係かなと思っております。

今年度五十幡ガバナーのテーマは「入って良かったロータリー」という事です。それにまつわるお話をしたいと思います。

私は小田原、湯沢、直江津などに行き、美味しい物を食べたり、お酒を飲んだりしています。直江津に年に2、3回行きます。私は車が好きですが、ある時に飲食店でしたが、アストンマーチンが停まっています、通り過ぎたのですが、立ち寄るしかないだろうと思い、入店しました。スナック系統のお店で、アストンマーチンが停まっていますねという話を始めたところ、お客さんで来ていた人でしたが、話を途中でロータリアンで、設計屋さんであるという事でした。その後もそのお店に行くと、その人も来ているので、楽しく飲んでいました。

秩父から出た時にロータリアンに出会い、その後も付き合えるという事にロータリーに入っていて良かったなど。入会した当時より最近の方がロータリーに入っていて良かったなど感じています。

【幹事報告】

畝 徳治



1. 地区事務所よりポリオプラスソサエティ参加申し込み書類提出先について以上がきています。



随行者紹介

寄居ロータリークラブ

橋本 則彦様

寄居で税理士をやっております。事務所は駅のそばで、ロータリー歴は5年目です。もともとの住まいは熊谷です。以前は行田に住んでいました。

入会についてはお前もそろそろ入れてやるから入れという事で入会致しました。



寄居ロータリークラブ

吉田 正博様

家業は城南観光バスというバス事業と旅行事業を営んでいます。

私は2019年12月に入会させて頂き、4年目になります。入会と同時くらいにコロナウイルスが蔓延し、緊急事態宣言等があり、例会もほぼ2年くらい出られなかった状態で、今入会してくる人達と同じくらいしか出席出来ないのですが、先輩方に面倒を見て頂いて、ロータリアンの心得等もだんだんイメージがつかめてきたかなと思っております。



ガバナー補佐卓話

R I 第 2 5 7 0 地区 第 4 グループ



ガバナー補佐 柴崎 猛様

一度こちらにおじゃましましたので、懐かしい感じがします。今日のテーマは、クラブの活性化と地区とクラブの架け橋にという事です。地区はクラブのためにあるという事であると。上から目線で教えたり、指示したりする形ではないと言われております。今日の卓話がこちらのクラブの役に立てば、ありがたいと思っております。

自己紹介を簡単に申し上げますと、昭和 2 4 年 1 月 2 1 日生まれです。今年後期高齢者になりました。寄居町に生まれて育ちまして、地元の小中学校を出て、高校は熊谷高校、慶応大学工学部機械工学科を卒業して、昭和 4 8 年卒業と同時に父が創業者でありましたシバサキ製作所に専務として入社致しました。本来なら他人の飯を食べた後に、長男ですから親父が興した会社を継ぐのかなと思っていたのですが、ちょうど親父が体調を崩しましたので、大学卒業と同時に入社してくれという事で、帰って参りました。

2 代目社長になったのは、平成 6 年の 4 5 歳の時でした。創業者は入社当時病気をしましたが、その後治りまして、このまま黙っていると、死ぬまで社長をやりそうなので、私も年を取ってしまうという事もあり、そろそろ交代をと言ったところ、首にする気かと怒りましたが、私もそろそろ骨を埋めて寄居のためになりたいと思うし、頑張りたいと申し上げ、4 5 歳になったと言ったところ、親父も分かったと気持ちを切り替えてもらい、社長になりました。一人の社長が頑張れる平均年数は 2 8 年、3 0 年と言われます。昭和 3 1 年創業ですと、一代で 3 0 年、6 0 年経った当社の 9 年前 6 0 期に二代目の役割も終わるという事で、長男が出来れば 3 0 代のうちに継がせたいと思ひまして、息子が 3 9 歳の時に社長を譲りました。

一番力を入れたのは、3 年前の寄居町商工会 8 代目の会長を務めました。寄居は 1 0 年前に本田技研の工場が進出して、私は工業部の副会長をしておりまして、ホンダが来るのでは寄居商工会の皆さんのために何とか会長をやってくれという事で、受けました。1 2 年務めて辞めて 4 年目になり、現在は商工会の顧問になっています。併せて寄居駅南の中心市街地の活性化の話が出まして、ようやく昨年オープンしまして、中心市街地活性化法という認定機関に則って、町レベルでは日本で始めてでしたが、認定され、国からの補助率も高く、開発しました。長年一方通行道路でしたが、町民の悲願でしたが、昨年きれいになりました。今工事中の所は、町中にある埼玉県信用金庫が駅前に移転する事になっています。

ロータリー歴は 2 0 0 5 年に入会して、1 9

年経ちました。2 0 1 6 年に寄居ロータリークラブの 5 0 周年の時の会長を務め、その時に佐橋さんがガバナー補佐をやりました。その後 8 年経ちまして、ガバナー補佐を務める事になりました。地区役員については、昨年職業奉仕委員を務めました。

本題に入りますと、2 0 2 4 - 2 5 年度、ステファニー・アーチック国際ロータリー会長のテーマは「ロータリーのマジック」(The Magic of Rotary) です。会長自身もおっしゃっておりますが、このマジックとは、唱えて入れれば魔法のように物事が変わり、手品のように物事が解決するような事ではありません。それを敢えて日本語に訳せば、私は「ロータリーの奇跡」と言い換えたいと思います。それでは奇跡はどうしたら起こるのでしょうか。私はロータリーの公式標語として、皆さんよくご存じの「Service Above Self - 超我の奉仕」に尽きると思います。

人はそれぞれの立場で、一度しかない人生を楽しく、幸せに暮らしたいと思っています。それは世界中のあまた存在する人種に区別はありません。アーチック会長は、それをドミニカ共和国の浄水器の設置活動で発見しました。汚い水がフィルターを通った途端、きれいな水に変わったのを目のあたりにして、現地の少年の人生が変わった瞬間を体験したのです。

人間は自分は自分、人は人と区別して考えるところに不幸がきざします。真に正しい事とは、自分が救われると同時に他人も救わなければなりません。郷土の偉人、渋沢栄一翁の母親がいつも言っていた「自分だけが嬉しいではだめ、皆も嬉しいのが良いんだ」という言葉は、いまこそ思い起こすべき言葉でしょう。

無我とは言わずとも超我の心を徹底し、最もよく奉仕するものが最も多く報いられる事を信じて、我々は行動していこうではありませんか。

自他一如、小さな己は後にして、人の喜びは真の我が喜び、人の悲しみは我が悲しみとして、今後のロータリーカツづを実践しましょう。このような利他の心を持って活動した時に、まさに奇跡が起こるのだと思います。

そして国際ロータリー第 2 5 7 0 地区五十幡ガバナーは「入って良かったロータリー」を地区スローガンに 5 大地区方針を掲げました。

1. ポリオ撲滅を中心としたロータリーの奉仕活動のブランド化
2. 各クラブ 2 名以上の会員純増と D E I の推進
3. ロータリー財団への理解と寄付目標達成
4. ロータリーの目的、4 つのテスト、行動規範、行動計画に基づくロータリーの理念、行動計画の再確認
5. ローターアクトクラブの支援

これを受けて今年度はガバナー補佐として、地区の目標の設定を補佐するとともに、地区とクラブの架け橋になるべく、「クラブ活性化支援」「会員の学ぶサポート」を行って参ります。

具体的には

1. ラーニングセンターのガバナー補佐向けのコースを積極的に受講する。
2. ロータリークラブセントラルへの目標入力を推奨し、各クラブの目標を達成出来るよ

- うに支援する。
3. 会長幹事会を定期的に開催し、各クラブの情報交換・親睦・地区とクラブの橋渡しに努め、各クラブの取り組みからロータリー活動を相互に学べるようにする。
 4. 「不易流行、そしてチャレンジ」をテーマにIMを開催し、広い視野を持った講師をお呼びし、世界平和へのヒントにしたい。
 5. グループ内、各クラブを定期的に訪問し、クラブの活動、リソース、地区との連携について協議する。

今年度アーチック会長は平和を優先するという希望を掲げております。3年前になりますが、ロシアがウクライナに暴力によって現状変更をすると、19世紀に時計が逆戻しになってのではないかとというくらい驚きました。そこで日本ロータリーの役割を考えた時に、アルベルト・アインシュタイン博士が大正11年1月16日に来日しています。そこで予言した事があります。ヨーロッパが荒廃した時期は第一次世界大戦が終わってすぐです。何百万人という人が亡くなりました。そして日本に来た時に何て神秘的な国だろうと。アインシュタインは日本を好きになりました。

来日した時の講演録の一部をご紹介します。「世界は進むだけ進んでその間、幾度も逃走が繰り返され、最後に闘争に疲れる時が来るだろう。その時、世界の人類は必ず真の平和を求めて、世界の盟主を挙げなければならぬ時が来るに違いない。その世界の盟主は武力や金力ではなく、あらゆる国の歴史を超越した最も古く、かつ尊い家柄でなければならぬ。世界の文化はアジアに始まってアジアに還り、それはアジアの高峰日本に戻らなくてはならぬ。我らは神に感謝する。天が我ら人類に日本という国を創っておいてくれたことを」

もう一つ縄文時代の平和という事ですが、縄文時代が脚光を浴びている。この時代、一万年近くも続きながら人々が争った形跡が非常に少ないそうである。死人の骨を調べてみても、矢じりといった武器によって死んだあとが非常に稀であるという。それだけ長く平和な時代が続いたという事であろう。そのごとく、日本人は元来が平和を愛する民族だと言えるし、その知見も持ち合わせているのだと思う。いよいよ日本のロータリークラブが世界の平和のために立ち上がる時であると私は思っています。

米山に関しても日本に近い国ですが、政治的な関係がまずい中で奨学生がたくさん日本に来ているのはおかしいと思った事もあります。結果日本に来て、日本のファンになってくれる。日本人でなくては出来ない、日本のロータリーの特質だと思いました。改めて米山梅吉さんは素晴らしい方だと思います。

人生、100年時代を迎えて、シニア世代にとっていかに幸せな晩年を過ごせるかどうかは一大問題である。ここにハーバード大学が行った研究成果の記事がある。不幸なシニアを避けるにはという事ですが、結論として幸せなシニアになるためには、まずは仕事第一の人生を見直す事だそうである。家族、友人、知人など、肩書き抜きで付き合いしてくれる人達のために時

間を「投資」しておく、人生後半に幸せという「配当」になって戻ってくるのだという。結局のところ、人生後半に幸せになれるかどうかは、どれだけ周りの人々に感謝されたかによって決まるのだと断言しています。アメリカの事を言っていますが、日本もアメリカナイズされていますので、一聴に値すると思います。日刊工業新聞の記事です。これからのロータリー活動に参考になると思います。

最後に動画を見て頂きたいのですが、スティーブ・ジョブズは、まさに成功者の典型だと思います。その彼は56才で亡くなります。晩年を考えた時に、あれだけの成功者ですが、幸せだったかなど。けしてそうではありませんでした。それでは何故かを考えると、山本周五郎の書いた小説の中に「赤ひげ診療譚」という名著があるが、映画やテレビドラマにもなっているので、ご存じの方も多いかと思う。その中で赤ひげ先生が弟子に「人が死ぬ直前に語る言葉には真実がある」というくだりがある。これから流す動画は、56才で亡くなったアップル創業者であるスティーブ・ジョブズの述懐です。

2011年11月5日、妻と親族に看取られて天国に旅立ちました。56才です。本当に山本周五郎の言う通りだと思い、多くの方にこれを見て頂いています。

最後にガンジーが「明日死ぬかのように今を生きよ」「永遠に生きるかのように学べ」と言っています。ぜひ皆さんにとりまして、ロータリー活動が人生に役に立つようお願い申し上げます。卓話を終わります。



出席率

免除以外の 会員	出席免除 会員	出席	メイク	出席率
7	0	4	0	57.1%

